



まちだの新たな
学校づくり

Machida New Concept School 2040

町田市の新たな学校づくりについて

2024年4月25日(木) 小田原市新しい学校づくり検討委員会
町田市教育委員会学校教育部新たな学校づくり推進課

目次

- 1 町田市の紹介
- 2 新たな学校づくり推進計画について
- 3 新たな学校ができるまでの検討体制及び内容について

1 町田市の紹介

1-1. 東京都町田市について

1-2. 町田市内の学校について

1-1.東京都町田市について

- 面積

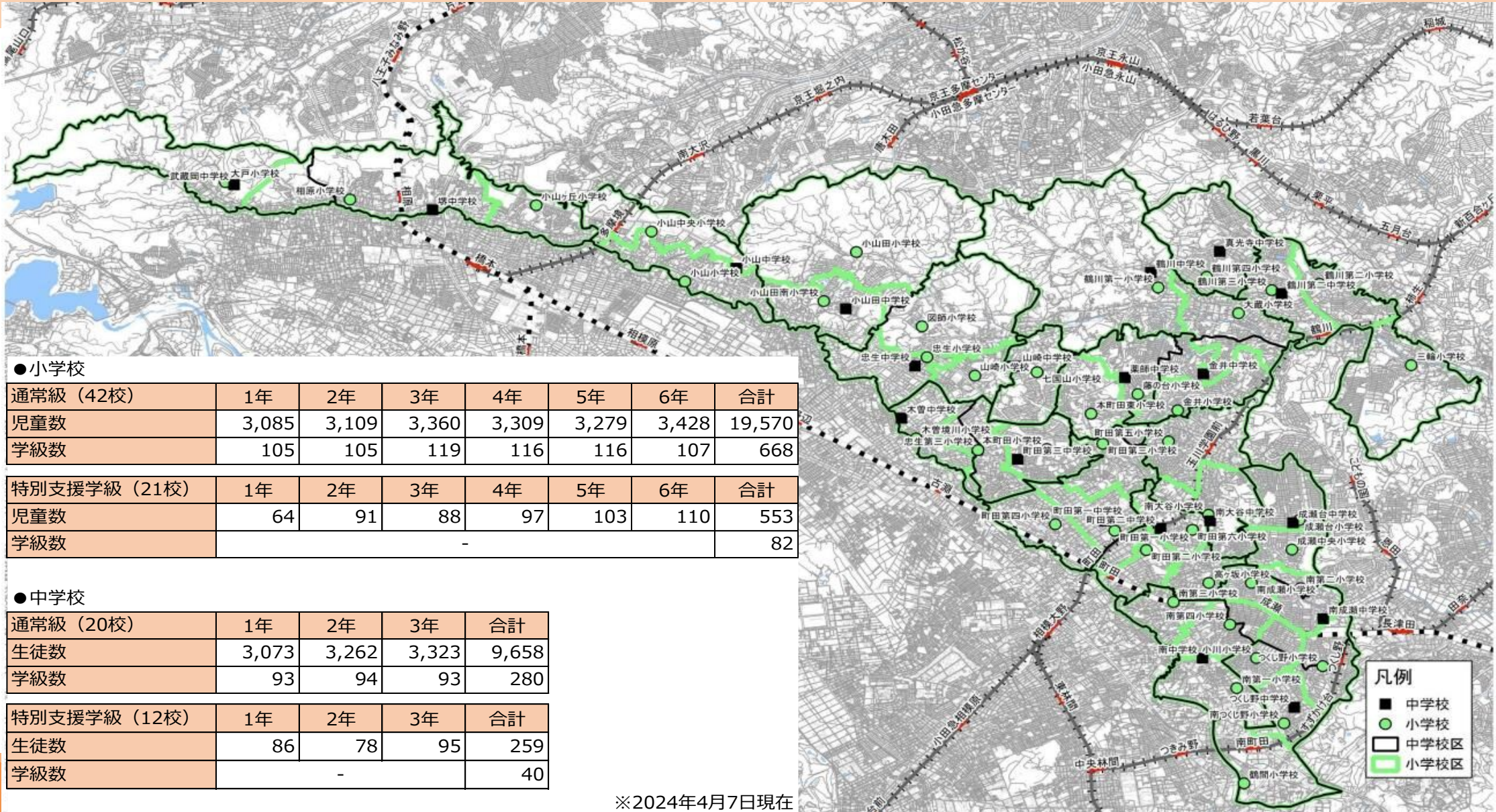
71.55km²

- 人口

43万558人（2024年4月1日現在）



1-2.町田市内の学校について



●小学校							
通常級（42校）	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	3,085	3,109	3,360	3,309	3,279	3,428	19,570
学級数	105	105	119	116	116	107	668

特別支援学級（21校）							
児童数	64	91	88	97	103	110	553
学級数	-						82

●中学校				
通常級（20校）	1年	2年	3年	合計
生徒数	3,073	3,262	3,323	9,658
学級数	93	94	93	280

特別支援学級（12校）				
生徒数	86	78	95	259
学級数	-			40

※2024年4月7日現在

2 新たな学校づくり推進計画について

2-1.計画の背景

2-2.新たな学校づくり推進計画の内容

2-3.新たな学校づくり推進計画のポイント



2-1. 計画の背景

1 児童・生徒数の減少

→2040年度の児童・生徒数は、2020年度と比較して約30%減少すると推計

2 学校施設の老朽化

→鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数60年を迎える学校が市内62校中55校

3 教育環境の変化

→ICT教育の推進など教育環境の変化に学校施設が十分対応できていない

2-2. 新たな学校づくり推進計画の内容

- 将来の変化を予測することが困難な時代への対応
- 環境変化や学校教育にかかる諸制度の改正への対応
- 町田に生まれ育つ未来の子どもたちが夢や志をもち、未来を切り拓くために必要な資質・能力を育む

より良い
教育環境を
整備する

2021年5月
策定



2-3. 新たな学校づくり推進計画のポイント

- 1 適正規模の基本的な考え方
- 2 適正配置の基本的な考え方

2-3. 新たな学校づくり推進計画のポイント

1 適正規模の基本的な考え方

●小学校

1学年あたり3学級から4学級（1校あたり18学級から24学級）

●中学校

1学年あたり4学級から6学級（1校あたり12学級から18学級）

※審議会では、アンケート結果を尊重し、小学校は3学級・中学校は4学級を望ましい学級数とし、適正規模を一定期間維持することも重要と考えることから、望ましい学級数に幅をもたせるため、小学校は3学級～4学級・中学校は4学級～6学級とした。

2-3. 新たな学校づくり推進計画のポイント

2 適正配置の基本的な考え方

5つの項目を総合的に検討し、新たな通学区域と学校候補地を定めた。

- ① 通学時間及び通学距離について
- ② 安全な通学環境について
- ③ 地域社会との関係について
- ④ 小・中学校区の整合について
- ⑤ 通学区域内における学校の位置について

2-3. 新たな学校づくり推進計画のポイント

5つの
項目

①通学時間及び通学距離について

- 「通学時間」は片道の通学時間の許容範囲として30分程度
- 「通学距離」は徒歩で2 k m

②安全な通学環境について

- 通学路の点検や地域との連携による見守り活動
- 子どもたちへの安全教育の実施

2-3. 新たな学校づくり推進計画のポイント

③ 地域社会との関係について

- 町区域に基づく通学区域とする
- 地域コミュニティにおける様々な活動との関係

5つの
項目

④ 小・中学校区の整合について

- 1つの小学校から複数の中学校へ分かれて進学することが無いようにする。

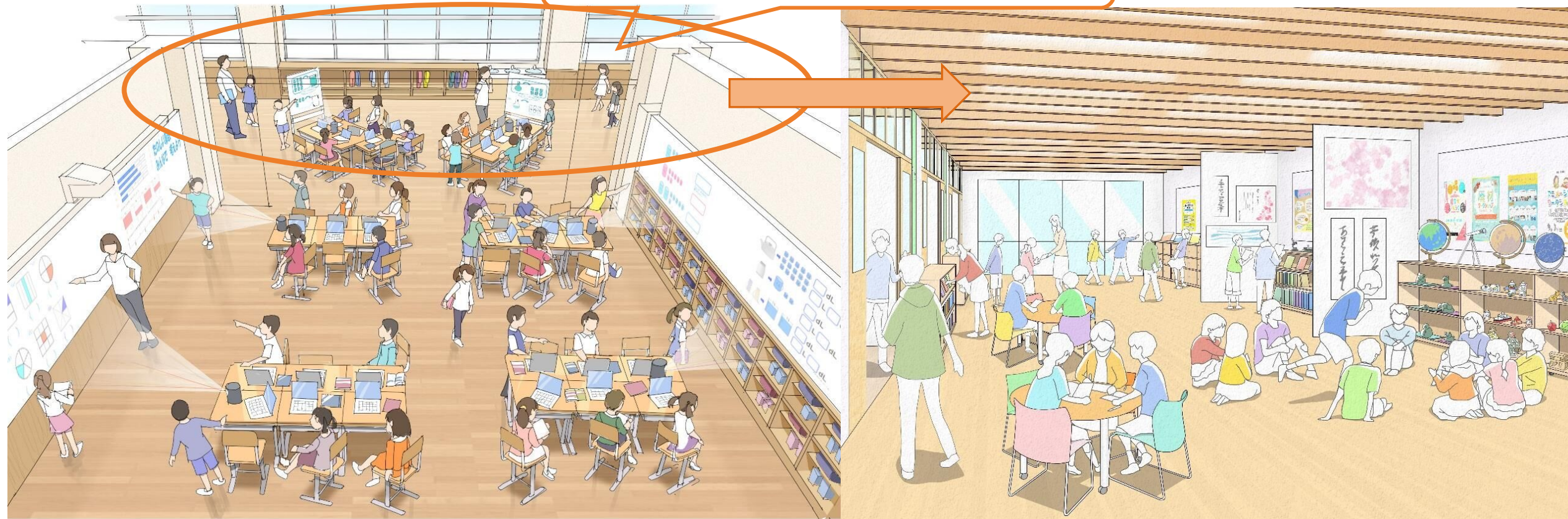
⑤ 通学区域内における学校の位置について

- 児童・生徒の通学のしやすさ
- ゆとりある学校施設環境の整備
- 学校施設の老朽化の現状

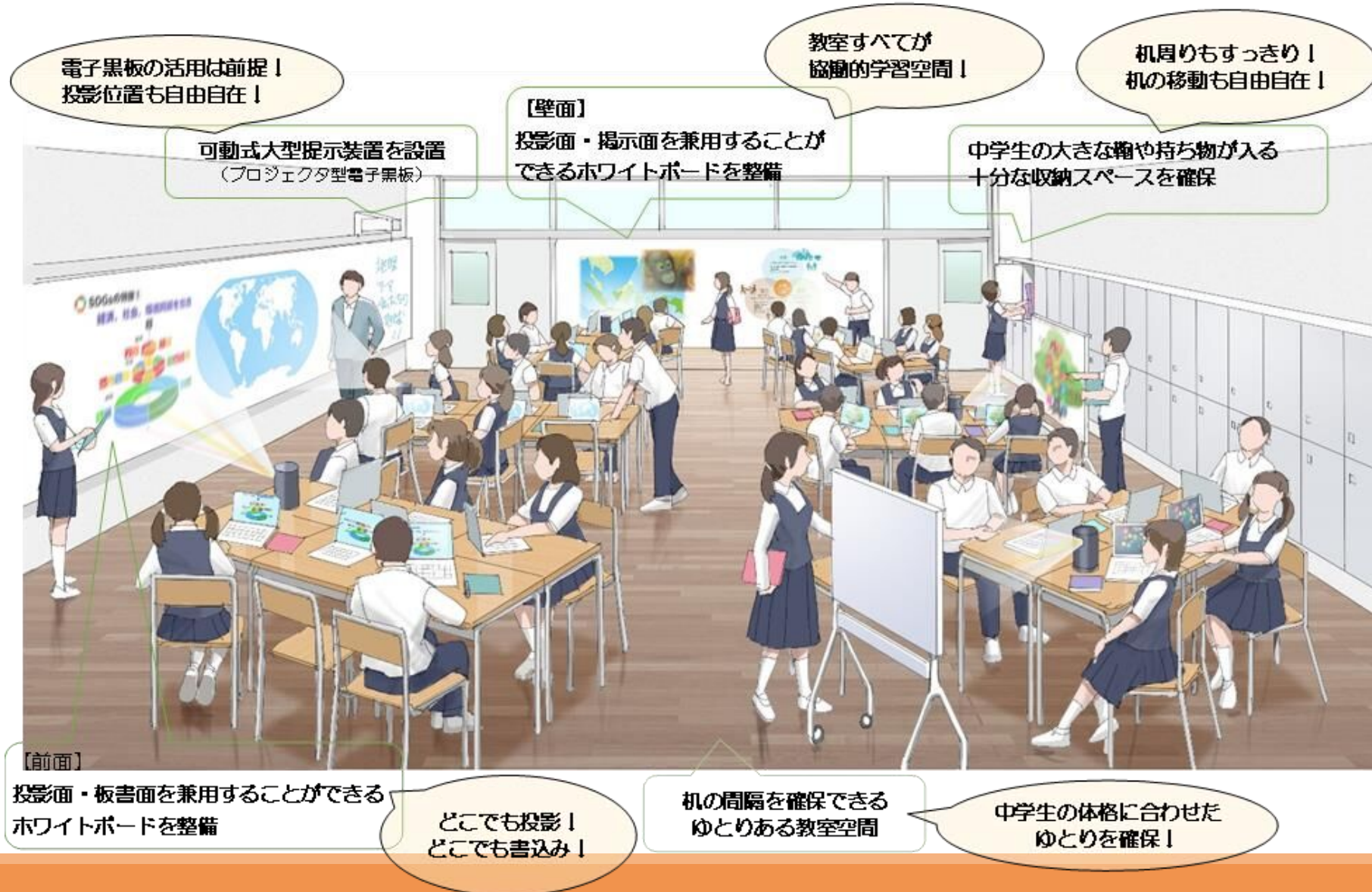


新たな学校の整備イメージ（小学校）

小学校はオープンスペースを整備



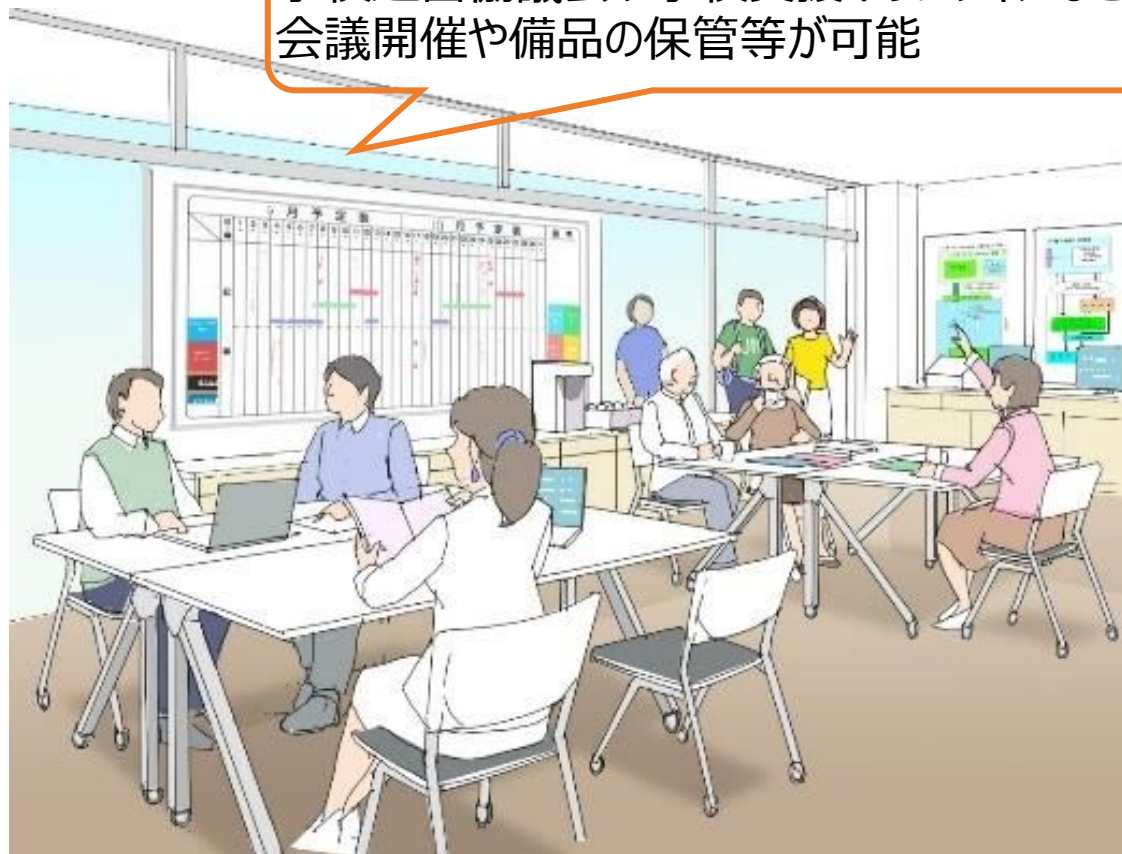
新たな学校の整備イメージ（中学校）



新たな学校の整備イメージ（地域の活動拠点としての学校）

コミュニティールーム・開放スペース

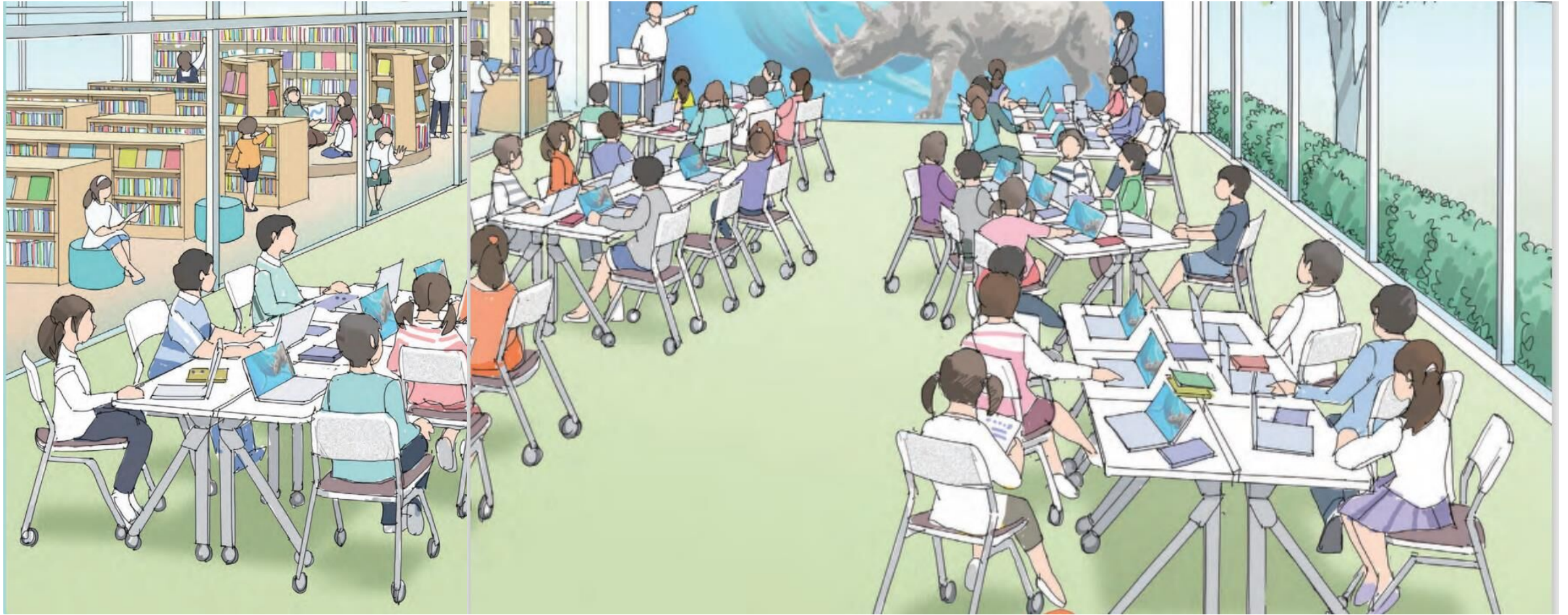
学校運営協議会や学校支援ボランティアなどの
会議開催や備品の保管等が可能



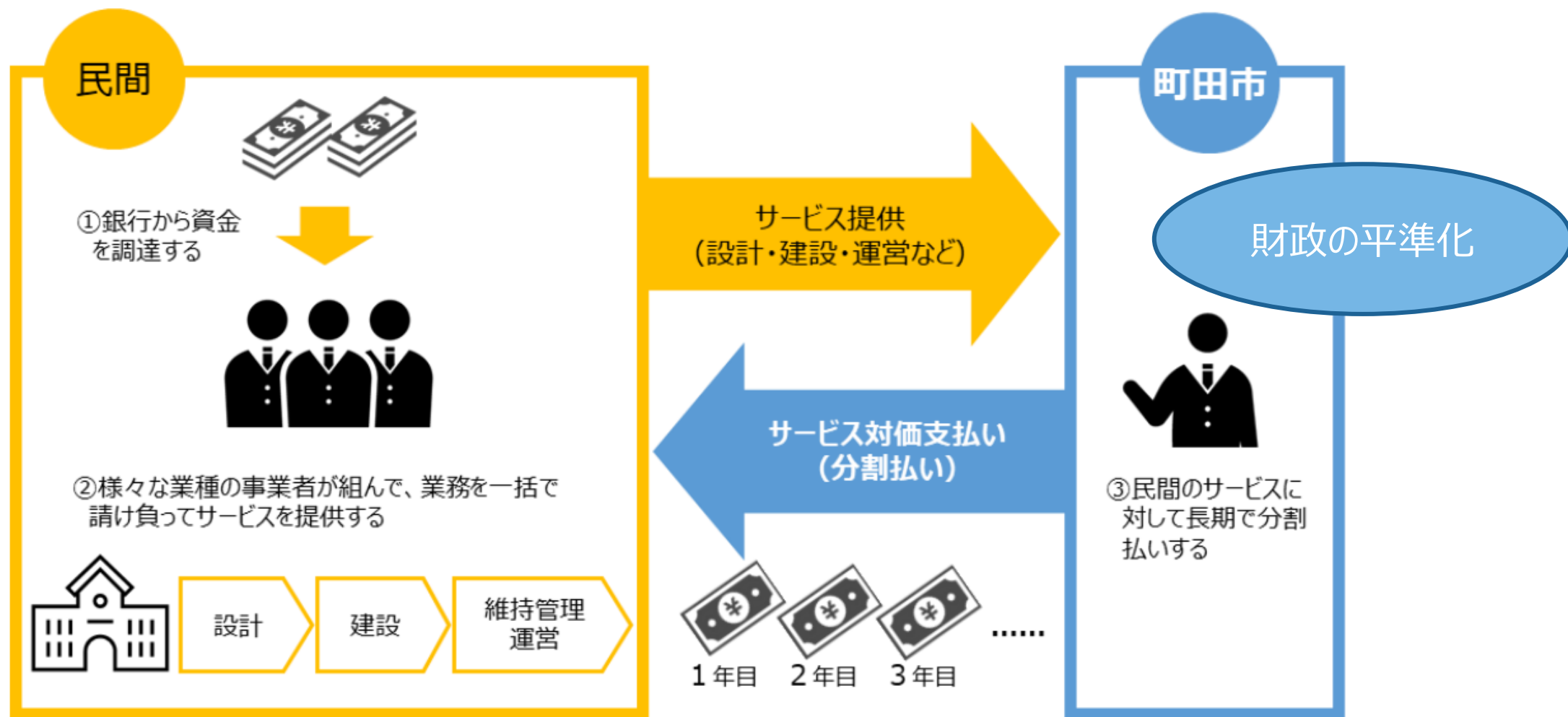
地域の方も使える交流の場として利用可能



新たな学校の整備イメージ（ラーニングセンター）

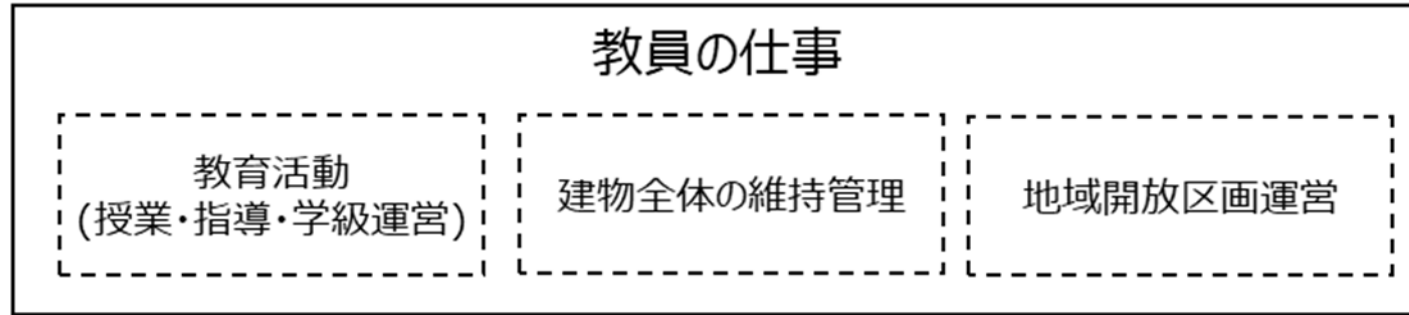


PFIの活用



PFIの活用

【現在】



【新たな学校】



3 新たな学校ができるまでの検討体制 及び内容について

3-1. 新たな学校ができるまでの道のり

3-2. 新たな学校づくりの検討内容について

3-1. 新たな学校ができるまでの道のり



3 - 1 . 新たな学校ができるまでの道のり

2023年3月に、以下の5地区の基本計画を策定

- 本町田地区
- 南成瀬地区
- 鶴川東地区
- 鶴川西地区
- 南第一小地区

→完成後、各地区において基本計画についての説明会を開催
現在も各地区にて推進協議会を開催中



3-1. 新たな学校ができるまでの道のり

〈例〉南第二小・南成瀬小

学校名/年度	2023	2024	2025	2026	2027	2028
南第二小学校						
	既存校舎		新校舎建設			☆新校舎使用
南成瀬小学校						
	既存校舎		既存校舎			

統合

引越

2021年度 意見交換会

2021年度～2022年度

基本計画検討会、基本計画策定

2023年度～ 基本計画推進協議会

2025年度

南第二小と南成瀬小が統合

→南成瀬小を仮校舎とし「成瀬小学校」開校

2025年度～2027年度

新校舎を「南第二小」に建設

2028年度 新校舎完成、引越し

3 - 2 . 新たな学校づくりの検討内容について

1 検討事項等

●新たな学校の基本計画検討会（検討事項）

- ① 統合新設校の統合準備に関すること
- ② 新たな学校づくりにおける学校の施設、設備の整備等に関すること
- ③ 前各号に掲げるもののほか、新たな学校づくりに必要な事項に関すること

●新たな学校づくり基本計画推進協議会（検討及び進捗確認事項）

- ① 新たな学校づくりに必要な事項の協議
- ② 新たな学校づくり基本計画の進捗状況の共有
- ③ 前各号に掲げるもののほか、新たな学校の設置に必要な事項に関すること

3 - 2 . 新たな学校づくりの検討内容について

2 委員構成

- ① 新たな学校づくり対象校の学校運営協力者の代表 各校 2 名以内
- ② 新たな学校づくり対象校の保護者の代表 各校 3 名以内
- ③ 新たな通学区域内的の地域の代表 2 名以内
- ④ 新たな学校づくり対象校の教職員の代表者 各校 2 名以内
- ⑤ 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

3 - 2 . 新たな学校づくりの検討内容について

3 主な検討項目

- ① 施設整備 …27P
- ② 通学路の安全対策 …28、29P
- ③ 通学の負担軽減 …30P
- ④ 統合時の子どもたちへの配慮事項
- ⑤ 新たな学校の学校名・校歌・校章 …31P
- ⑥ 歴史の継承 …32P
- ⑦ 教育目標（育てたい子ども像）
- ⑧ 保護者組織の合流
- ⑨ 地域協働活動関係団体の合流（まちとも・ボランティアコーディネーターなど）



3 - 2 . 新たな学校づくりの検討内容について

4 ワークショップの事例 「テーマ：新たな学校の施設整備」

内容	主な意見
複数の施設配置イメージ図を参考にワークショップを行い、児童の教育・生活環境の場である学校施設を前提としながら、「建物の配置」、「地域開放」、「防災」などのテーマ別に検討しました。	● 車両用と児童用の校門の分離、児童の安全性に配慮したい。 ● 出来る限りグラウンドを大きく確保したい。 ● プールは室内のほうが良い。 ● 地域開放エリアと教室ゾーンを明確に区画してほしい。 ● 地域開放で利用する部屋は、わかりやすい位置にしてもらいたい。 ● 避難スペースは1階が望ましい。 ● 体育館、特別教室と教室ゾーンを分けたほうがよい。 ● 防災倉庫の位置は荷物の出しやすい場所や認識のしやすい主出入口の近くが望ましい。 等

施設配置イメージ図



3-2. 新たな学校づくりの検討内容について

5-1 ワークショップの事例「テーマ：通学路の安全対策」

内容	主な意見
通学先が変わることに伴い、通学する児童の流れが変わることから、新たな通学路を設定する必要があります。 検討会では、それぞれの時点における児童の通学の流れを想定しながら、通学路の候補及び対策が必要と考えられる場所について、現地確認やワークショップを通じて検討しました。	● 歩道が狭い。 ● 信号機のない横断歩道がある。 ● 暗い（通行の安全性・不審者への心配）。 ● ガードレールを設置してほしい。 ● 車の交通量が多い。 等

3-2. 新たな学校づくりの検討内容について

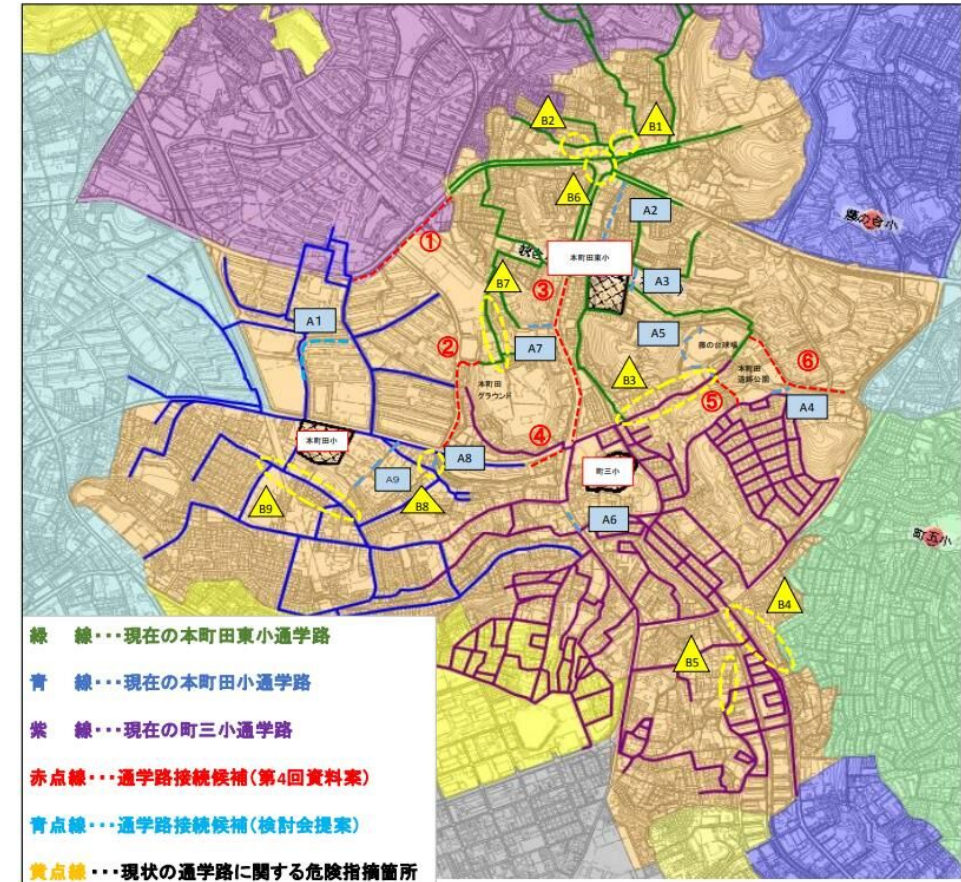
5-2 通学路の安全対策について

●安全対策の検討

登下校の時間帯の現地確認やワークショップを通じて議論した結果を要望事項としてとりまとめ、道路管理者や交通管理者等の関係各所への安全対策を要望



通学路候補・安全対策要望箇所位置図



3-2. 新たな学校づくりの検討内容について

6 通学負担の軽減

●通学負担の軽減策検討

公共交通機関（路線バス）を利用した通学方法について、
「荷物が多い」、「ちゃんとバスに乗れるか不安」等の多くの意見

- ① 路線バス乗り方教室の実施
- ② 荷物らくらく登校の試行



ICカードを利用した乗車体験

3-2. 新たな学校づくりの検討内容について

7 学校名・校歌・校章

●学校名、校歌・校章の作成方法について議論

アンケートや意見募集結果を踏まえ、学校名を複数案選定（その後、教育委員会で協議・決定）。
新しい学校名に基づき、校歌や校章の作成方法について議論。



→児童と製作者（大学・音楽制作会社）の交流を重視した取り組みを実施



校歌制作に向けた交流事業の様子



校章制作に向けた交流事業の様子

3 - 2 . 新たな学校づくりの検討内容について

8 歴史の継承

●各校の歴史の継承の検討

各校の教育活動などに関わっていただいている方々や、地域の方々に愛着をもっていただけるよう各校の歴史や想いの継承について検討。

→ デジタル保存のためのコンテンツを作成

コンテンツ種類	内容
3 6 0 °パノラマVRツアー	学校敷地内を2 0箇所、3 6 0 °カメラで撮影し、閲覧できるコンテンツ。
プロモーション動画	無人航空機を用いて学校敷地内を撮影した、学校全体の雰囲気を感じることのできる動画。
思い出フォトアルバム	通常のカメラで撮影した画像を最大5 0枚表示するコンテンツ。

3-2. 新たな学校づくりの検討内容について

9 その他の検討事項

検討項目	内容	主な意見
避難施設	学校は避難施設に指定されていることから、学校統合に伴う地域の避難施設の考え方について、以下のとおり情報共有を行いました。 ①近隣の避難施設に分散 ②避難場所の拡充の検討 ③学校跡地における避難施設機能	●工事期間中に地域住民の方が安心して生活できるようにしてほしい。 ●避難所になっていない公共施設も避難所として活用できるようにしてほしい。 ●各校の避難施設運営連絡会には早めに方針を知らせてもらえると、使えなくなる前から事前訓練などを行える。 ●町内会・自治会への避難先について、今後変わる場合もそうだが現在の避難先に関しても知らない人が多いので、もっと周知をお願いしたい。 等
学童	学校統合に伴う学童保育クラブの考え方について、以下のとおり情報共有を行いました。 ①一小学校区に一つの学童保育クラブ ②低学年児童（1～3年生）と障がい児の全入制度 ③今後について	●学童を利用している児童が統合後も継続して利用することを踏まえて、どれくらいのスペースや物が必要なのかを考えておいてほしい。 ●監督者や指導員など、大人の数が不足することがないようにしてほしい。 ●新校舎については、統合時に、これまで学童保育クラブを利用できた方が、利用できなくなるというようなことがないようにしてほしい。 ●保護者の送迎の方法についても検討してほしい。 等
跡地活用	学校は、教育活動（授業・部活動）の場としてだけでなく、災害時の避難施設など、地域住民にとって、地域の状況に応じた地域の活動の場としても身近な場所となっていることから、小学校の跡地の活用について、以下のとおり情報共有を行いました。 ①学校跡地の基本的な考え方 ②学校跡地に関する今後の進め方	●跡地活用については、市民サービスの向上、市の安定的な財源確保などの様々な観点があると思うが、学校については地域での活動の場ともなっていることから、地域の意見をしっかり受け止めながら決めていただきたい。 ●跡地活用のアンケートを取る際は、小学校が地域の防災の拠点であることを忘れずに実施してほしい。 等



まちだの新たな 学校づくり

Machida New Concept School 2040